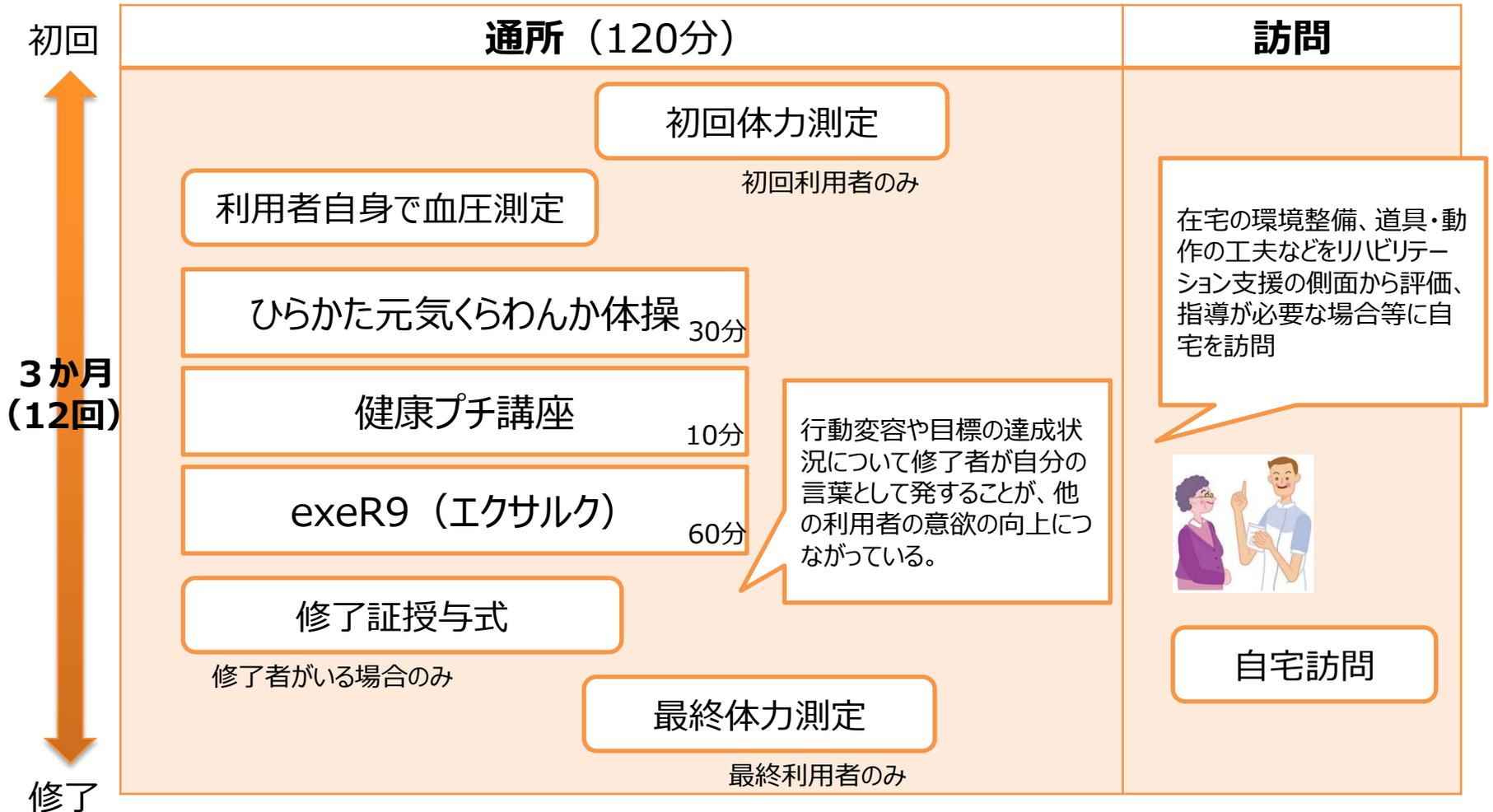




介護予防・生活支援サービス事業 り八職訪問通所指導事業

枚方市長寿社会部
地域包括ケア推進課

プログラムの概要



卒業生エピソード（1）

67歳（男性）

目標：畑まで週に2～3回歩いて通い、家庭菜園を続け友人と交流する。

脳梗塞発症、退院されるが心房細動は経過観察。退院翌月に再度入院し、アブレーション治療受け退院。経過良好のため本事業利用開始。

初回は、脳梗塞の後遺症や心不全を懸念され、妻の付き添いで来所される。体力測定では呼吸苦や不整脈は感じることなく、すべてのプログラムを積極的に実施。

序盤～中盤にかけて、多い時は1日8,000歩移動されるなど体力づくりに励まれ、3回目以降はお一人で来所されるようになりました。

中盤～終盤には、付き添いなしでの来所ができ、**友人の後押しで稲刈りにも挑戦、本人から「コンバインを使用できた」と喜びのコメントがありました。今までできなかったことが出来るようになった達成感を感じられていました。来年には春野菜を育てたいと今後の生活や畑の活動を楽しみにしておられます。**

最終日の体力測定では、ほぼ全項目に明らかな改善がみられ、事業終了時には自身の努力や成功体験（行動変容）を皆に発表され、自信を持って卒業されました。

卒業生エピソード（2）

79歳（女性）

目標：歩行車なくても外出できるようになる。

脳梗塞、脊柱管狭窄症、高血圧病既往。

初回の参加はコルセット着用、歩行車で来所。もともと運動機能は高く、同世代の平均値とほぼ変わらない結果であったが、自宅周囲は坂道が多く、安全面を考慮し、歩行車を使用しているとのこと。

会場では常に前の方に座られ、積極的に参加されていた。

事業後半にはコルセットの着用もなくなり、身体所見の変化もみられた。

脳梗塞発症により、控えていた新舞踊の発表会にも1年ぶりに参加することができ、見事に観客の前で踊りを披露されていた。

歩行車はなくても歩くことはできるが、自宅周辺の環境を考慮し、もう少し使用していくことと、最終日は以前より計画していた旅行に行かれるとのことで欠席されたが、自信と身体機能の回復を獲得して卒業された。

